

ツルガ薬局 漢方症例 《 27歳 妊婦 胎盤に血栓と水疱 》

■ 2013年8月

「胎盤に血栓、水疱らしきものが見つかり、原因不明。医師から絶対安静と言われるも、何も処置なく経過観察…。」

27歳初めての妊娠。現在、妊娠4ヶ月。結婚して県外に住んでいるが、8月に入ってお盆で実家の敦賀に帰省中。

8月16日、朝の4時頃、突然水っぽいオリモノが大量に出てびしょり。羊水かと思いき、驚いて直ちに市内のT病院へ受診。診察の結果、様子を見ましようと言われ実家に帰宅。

翌日の8月17日の昼に今度は出血し、再度T病院へ受診。絶対安静と言われ、緊急入院。入院中は切迫流産の薬を服用。本人は至って元気なのだが、検査の結果で「胎盤に血栓があり、水疱らしきものが見える。このようなケースは初めてで原因不明なので、様子を見ていくしかない」と言われ、数日入院はしているものの、埒が明かないので、実家で安静にしている。数日後には結婚先の場所の病院へ転院予定。

血栓に対してバイアスピリンが処方されているが、本人は飲みたくない。

原因不明、ただ安静にして経過を見ていくしかないと言われるだけなので…、とお母さんから相談。

詳しくお聞きすると、

- ・ 見かけは色白で中肉中背、肌は水っぽい感じ
- ・ 自覚症状としては、お腹の張りとお鼻水
- ・ 今までは当帰芍薬散を服用していた
- ・ のどの渇きの自覚症状は無いが、水は多く(1.5L程)飲んでいる
- ・ お腹の張りあり(朝と夜)
- ・ 本人は至って元気(目立った他症状無し)
- ・

【考察】

出血する前に水っぽいオリモノが大量に出たのは「一種の子宮の鼻水」であり、現在も鼻水が出て肌も色白で水っぽい、そして水疱らしきものが見つかった、ということからも捌ききれない水が体に影響を及ぼしていることが考えられる。「当帰芍薬散」も水の多い方に良いとされている漢方薬だが、今の状態をお聞きすると当帰芍薬散では効いていないことが分かるので一度服用を休んでもらい、まず

子宮を温めて水をさばき胎を養う漢方薬を服用するように説明。10 日分処方。

【経過・結果】

■ 8 月 26 日

鼻水出なくなった。子宮を中心に下腹部から体が温まっている感じあり。オリモノや出血はなし。本人は至って元気。

1 週間ごとに通院して検査をしている。水疱らしきものはまだある。お腹の張りもあり、検査の結果で流産の危険性が高いと言われ、大変不安。流産予防で「ウテメリン」が 1 日 4 回服用するように処方されたが、服用すると動悸がして辛くて 1 日 4 回も飲めない(担当医に動悸のことを伝え、1 日 4 回じゃなくても飲める回数でいいから服用するように言われる)。本人は副作用でつらいので、担当医には内緒で服用していないとのこと。また、血液検査で「鉄色素が高い」と言われ、現在飲んでいる「バイランカルシウム(カルシウムイオンと鉄イオン)」の服用を休むように言われた、とのこと。

【考察・対応】

鼻水出なくなったこと、温まっている感じが出ているので、続けるように説明。
2 週間分処方。

※水疱や鉄色素が高くなった原因は…、

本来子宮は女性にとって体を温めているカイロのようなもの。妊娠中は特に子宮にもう一人命を宿して、体の栄養や酸素や熱を血液・胎盤を通して子宮に集めている状態です。体に不必要な水は、この巡りを妨げてしまいます。水は熱を奪います。冷やします。熱を運ぶのは血液です。そこで、血液を増産して何とかお腹の赤ちゃんに酸素や栄養がちゃんと届くようにと、肝臓に貯蔵されている鉄を出して血液を増やそうとしている状態とも考えられます。そこで一時的に鉄が高くなったのか…。また、子宮は五臓で言うと「肝臓」です。今不必要な水によって冷えて、体の中で赤ちゃんを守るべくもっと多くの熱を肝臓(子宮)で作ってオーバーヒートしている状態とも考えられます。その負担で肝臓から鉄が漏れ出ているのか、口からはいった鉄が肝臓に貯蔵できない状態なのか…。(鉄は肝臓に貯蔵されます。血液もまた肝臓に貯蔵されます。)

どっちの状態であれ、根本は冷えた水を取り、血液循環を良くし、子宮や胎盤、肝臓が温まって大切な赤ちゃんが養われるようにすれば良いので、この胎を養う漢方薬

で良いことが分かります。

■ 9月9日

調子は良い。毎週通院しているが、相変わらず医者からは「流産の危険性が高いので絶対安静」と言われる。ウテメリンを処方されているが、一切飲んでいない。エコー検査でも水疱らしきものはまだ有り。

唯一の自覚症状は、お腹の張りで、そして病院からも流産の危険性が高いといわれている。そこで、今の漢方薬の効果を高めるために、そして流産予防とお腹の張りを楽にさせる目的で、「温賦湯(おんぶとう)」を追加して服用するように説明(下記の条文を参考に)。

※金匱要畧(きんきようりやく)の婦人妊娠病3条

「…胎いよいよ張り、腹痛悪寒し、少腹(しょうふく)扇(あお)がるる如し、然(しか)る所以(ゆえん)の者は子蔵(しぞう)開くが故也 当に附子湯を以って其の臍を温むべし」

■ 9月30日

病院の検査で、水疱が小さくなっていると言われた!!(喜)

医者がエコーで水疱を探すが、「アレッ、以前より小さくなっているかなあ…」と大変不思議そうに言われた。毎回検査のたびに、自分でもエコーの画面を見ていたので良く分かったが、明らかに小さくなっていたことが確認できた。

お腹の張りも朝は全くなくなった。夕方からのお腹の張りは、まだあり。

同じ処方(食前に温賦湯、食後に胎を養う漢方薬) 2週間分処方。

■ 10月16日

検査で、水疱が消えた!!!ヽ(´▽`)/

以前血液検査で指摘された「鉄色素が高い」ということに関しても、もう正常値になりました、とのこと。

よくお聞きすると、医者からは鉄イオン(商品名::バイランカルシウム)の服用を止めるように言われていたが、お腹の赤ちゃんと自分の体のために良いものだと自分で信じていたので、ずっと止めずに飲んでいたので、漢方薬のおかげで、バラ

スが取れて正常になれたのだと自分では思います、と言って頂けた。
お腹の張りも朝は全くなくなり、夜の張りも最初の頃よりも半分くらいの程度になりましたとのこと。

この方は、以前妊娠前に「温腹湯」を服用していたことがあり、大変調子が良くなった経験有り。妊娠中の今でも 1 包服用するだけで体が温かくなり汗がしっとりと出てくるという程、「温腹湯」が合う人。

当初一番の悩みの「水疱(血栓)」も無くなり、状態も良くなっていることから、今以上の良い状態を作るために、今の食前・食後の漢方薬を合方し、温腹湯を追加して服用するように説明。

漢方の専門相談は、ツルガ薬局の漢方専門相談スタッフまでお気軽にどうぞ♪

漢方専門相談は完全予約制となっておりますので、まずはお気軽にお電話にてご予約下さい。

一部の漢方症例は、ツルガ薬局のホームページにて御覧頂けます。

ツルガ薬局ホームページのアドレスは→<http://tsurugayakkyoku.com>